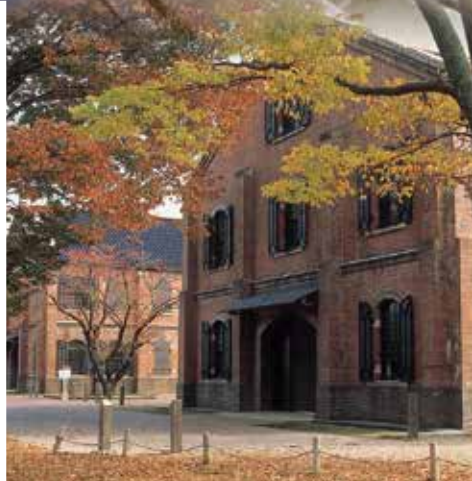


Ishikawa
Medical
石川県地域医療支援センター 広報誌
WAVE
いしかわ メディカル ウェイヴ

2015
Autumn

第14号



石川県地域医療支援センター

地域医療連携

石川県小児医療ネットワーク事業

病病連携で人の流れをつくり、 将来にわたるキャリアを支援。

金沢大学附属病院小児科は、女性医師が約半数を占める。慢性的な医師不足のなか、女性医師の戦力化が年々重要になっており、働きやすい環境づくりや出産、育児を経て職場復帰する支援体制も整いつつある。支援の背景、内容などについて谷内江昭宏教授に聞いた。

小児医療の構造的な問題

—女性医師の存在がこれまで以上に重要になっています。背景には何があるのですか？

谷内江● 女性医師の働きやすさ、環境づくりに配慮した支援はこれまでも行っていますが、県に予算を付けていただいてより環境整備を進めやすい体制が整ってきています。背景には、小児医療の構造的変化が大きく関係しています。小児科は慢性的な医師不足が続いていますが、単純な数の不足というより、実はマンパワーを集約して行う医療がどんどん増えていることが影響しています。一つはNICU、未熟児や新生児の医療。二つ目は小児救急医療や循環器の分野。三つ目は大学病院で行っている高度で先進的な医療です。悪性腫瘍や私の専門でもある免疫不全など重症疾患の治療に、非常にマンパワーが必要になっています。そこに人を集約するとどうしても勤務医の数が増え、今まで満遍なく小児科医が分散されていたところに不足が生じてきます。小児科医不足や女性医師の戦力化の背景には、そうした構造的な問題が深く絡んでいます。

—能登北部など地域医療の現場や、小児救急など夜間や外来の対応で医師が手薄になっている現実もあります。優先順位についてはどうお考えですか？

谷内江● 難しいですが、高度な医療と小児医療全体を良くすることの両方を満たさないといけないと考えています。大学病院の使命として高度医療をおろそかにはできません。小児医療全体のことに関しては、大学病院だけでは解決できない部分もありますので、たとえば県のネットワークのなかで情報交換をし、きちんとした人の流れをつくるのが重要だと考えています。現状は、大学病院と金沢医療センター、県立中央病院、公立能登総合病院、小松市民病院、医王病院が連携して、どんな医療やどんな医師が、どこに必要なかを相談しながら適切な人員配置を決めています。研修医



金沢大学附属病院
小児科

谷内江 昭宏 教授

の初期研修プログラムにも反映されています。加えて県のネットワークなども利用して、救急の分野、高度先進医療の分野、新生児の分野、重度心身障害の分野というように、情報を共有して役割分担を決め、ネットワークを創っていきたくと考えています。

専門医を増やし、医療の質を担保

—実際の活動状況などについてお聞かせください。

谷内江● たとえば、県立中央病院では女性医師3名のうち2名が子育て中で、今春から常勤医師を2名派遣、さらに増員を図るとともに、夜勤当直など勤務環境の改善に取り組んでいます。また、能登北部の珠洲市総合病院には女性医師を1人派遣していますが、当直体制の支援やオンラインによるテレビ会議システムなどを使った研修、カンファレンスなどでサポートしています。奥能登は医師が少ないので必ずしもバランスがとれた、十分な体制はとれませんが、近隣の開業医さんとも連携し、最低限の体制を整えています。

—今後の女性医師支援のための環境づくりやプログラムについてお聞かせください。

谷内江● 大学病院として重要なのは、小児科医を増やしつつ、優秀な人材を育てていくこと。小児科はもともと女性医師の割合が高

く、現在も4～5割を占めます。の中にはバリバリ活躍中の人もいますし、産休や子育て中の人もいます。女性医師が長く活躍するには、産休を増やす、出産後職場復帰したい場合はいきなりフルタイムではなく、時間勤務など働きやすい環境をつくることです。それは男性医師の働きやすさにも通じます。医療の質を保ちつつ、病院全体としての機能を高いレベルにするために、男性医師も空いた時間で支援に回るなど、子育てしやすい場を増やし、将来にわたるキャリアパスを支援することです。教育面では小児

科医である以上、女性も専門医を目指してほしい。そのうえで腎臓、アレルギー、呼吸器、循環器などそれぞれの専門分野をみつけていただく。可能な人には学位を取って学問的な力もつけていただきたいと思います。私自身、大学病院は将来的に男女共同参画支援センターみたいなものを整備して、小児科など特定の診療科だけではなく、大きな枠組みで支援できる体制を整えることが理想的だと考えています。

活躍する女性小児科医

○近年、女性医師の増加に伴って、金沢大学附属病院小児科に入局する女性医師は増加しており、妊娠・出産・子育てに配慮しながらも、地域医療に貢献してもらえそうな、女性医師のキャリアを形成支援していくことが求められている。

- 金沢大学の女性小児科医：10名（38.5%）
- 公立病院などの女性小児科医：9名



珠洲市総合病院で活躍する田崎優子先生



地域とともに歩きながら

やりがいと情熱をはぐくむ。

大学病院の教授職を定年退職し、能登の地域医療に第二の人生を賭ける二人の医師がいます。先進的な高度医療の現場から、高齢化率40%の能登北部地域へ。どんな思いで日々の診療に取り組んでいるのか取材しました。

生活習慣病と呼吸器疾患が増えている

小泉●私は糖尿病が専門ですが、金沢大学附属病院では総合診療部にて、学生たちに地域医療やプライマリ・ケアについて教える立場でした。大学を定年退職するに際し、自分が地域医療の現場に長く勤務した経験がありません。全国からいろいろお話はあったのですが、石川県を離れられない事情もあり、それならできるだけ大学から遠い方が地域に根差した医療ができると思い能登の最北端を選びました。正式な赴任は昨年4月です。

石崎●私は小泉先生より半年遅れて赴任しました。その半年ほど前に県庁の職員さんと能登北部を視察に回り、呼吸器内科の専門医が少ないことを知り、定年を早めてここに来ました。富山県高岡の出身で、実家に高齢の母親が今も住まっています。福井大学（呼吸器内科教授）が長くずっと親不孝をしてきたので、できるだけ実家に近いところを選びたかった。もう一つ、福井大学で呼吸器の認定看護師の教育に携わり、呼吸器疾患は終生に渡り、切れ目のない治療が重要なことから、患者さんの支えになればと思ったのです。



珠洲市総合病院 内科医・総合診療医
小泉 順二 先生

小泉●赴任して1年半になりますが、やはり高齢者は多いと感じます。でも周りに頼らず、皆さん自力で頑張っておられます。それだけに高齢者をサポートする体制、仕組みがもう少し整えば、何とかなるような気がしています。病気を持ったお年寄り、独居や老老介護の家もあると思いますが、想像以上に明るく、改善できる可能性を感じています。

石崎●確かに人はやさしいし、患者さんはあまり要求を言われたい。だけど呼吸器の疾患は高齢とともに増えます。能登北部の高齢化率は約40%。県のデータでは、肺の病気で亡くなる人が金沢の約2倍、COPD（慢性閉塞性肺疾患）で亡くなる人は4倍にもなります。呼吸器疾患はタバコに起因する場合が多いので、治療はもちろん生活指導が大事です。医師や看護師、薬剤師、理学療法士などチーム医療で実践することが何より重要です。



能登北部呼吸器疾患センター センター長
公立穴水総合病院 呼吸器内科医

石崎 武志 先生

地域と一体の指導と支援が重要

小泉●糖尿病も同じようにチーム医療が大切です。スタッフが一体となって指導、支援していかないと地域の診療レベルはあがりません。若い先生は1～2年でローテーションするので、糖尿病のような長い疾患に関しては一貫した指導、病院としての指標が作りにくいのが現状です。その点、私はこれまでの経験を活かしながら、腰を据えて取り組みます。院内のスタッフだけではなく、地域の保健師さんや介護を含めた多職種の人たちとの連携を取りながら、息の長い支援をしていくことが重要だと痛感しています。

石崎●能登の人たちは、生活習慣を変えることに関してはなかなか頑固です。それゆえ、予防の段階からしっかり啓蒙、指導していかないと呼吸器の疾患はなかなか治せません。院内と同時に地域の保健師さん、介護士さんを含めた日ごろからの連携が大切です。これまで能登地区に呼吸器の専門医がいないことも原因の一つですが、それ以上に早



期発見、早期治療の仕組みが必要です。中等症以上の人は地域の拠点病院や金沢の病院を紹介する、それ以外は地元で治療、支援、指導していくといった“流れ”をつくるのが重要です。

小泉●糖尿病も同じです。この地域は、タバコやアルコールには寛容なところがあります。祭りの時に食べたり、飲んだりは多少大目に見ても、他の日はしっかり治療する。それだけでも変わると思います。食生活や酒、タバコ、運動不足など日常の生活習慣が改善されていかないと薬も効きません。しっかりとした指導が何より重要だと思います。

石崎●呼吸器は病気についての理解が余り進んでいません。患者さんだけではなく、医療スタッフも同様です。重症になれば、障害者認定や特定疾患といった難病指定もありますが、制度があることも知られていないのが現状です。ぜんそくの患者さんで吸入器の使い方を良く知らない人もいて、教えてあげると改善するのですが良くなるとすぐ止めてしまう。止めると再発しますので、私たちスタッフや多職種の人がみんなで声をかけて、息の長い支援がないと良くならないことをぜひ知っていただきたい。

やりがいと情熱を地域医療にそそぐ

小泉●スタッフの育成はとても重要です。しかしスタッフが勉強する機会が少ないのも事実。研修で金沢まで出ていくにも前日からです。家庭がある人はなかなか自由に行けません。昨年、石川県糖尿病療養指導士を育成することになり、その研修会を珠洲、輪島、穴水の3か所で行いました。金沢で実施したのをWebでとばしたのですが、それに100人以上が参加しました。勉強意欲は非常に高い。私の役割のひとつは、若い医師やスタッフを育成することでもあります。看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、臨床検査技師などチーム医療を推進するメンバーに今後、私自身が大学との接点があるので、そうした伝手を活かして学べる機会を提供する力になればと思っています。

石崎●去年から輪島病院の看護師さんが間質性肺炎について教えて欲しいと申出がありました。穴水病院でも同じように呼吸器のアセスメント（評価）について勉強会を開いてほしいとの要望があります。スタッフからの声や申出が少しずつですが広がりつつあります。能登に来て初めて診療したとき、それまで診断がつかなかった患者さんに初めて診断がついて、治療すると良くなった。とても感謝され、やりがいを覚えますし嬉しい。

小泉●ほんとにそう。かかわっている時間は今までと大きくは変わりませんが、いろんなところで患者さんと顔を合わせたり、看護師さんからの情報などから地域の人たちとの交流は深まっています。地域とつながりを持ちながら、自由にやらせてもらっているので、毎日がとても楽しい。糖尿病を中心とした慢性疾患や、地域の多職種の人たちとの連携、患者さんへの指導を担当しながら、若い先生方の力になればと思っています。

石崎●呼吸器疾患は予防的な観点から、院内はもちろん地域の保健師さんたちと一緒にやっていくことが大切だと思っています。今後、ホームページでいろんな相談コーナーを設けて、情報交換をしていきたい。能登に来て時間が長くなったと感じます。毎日、珠洲から穴水の宿舎に戻って港を散歩したり、自分の時間もてます。釣りでも楽しみながら、のんびりとした生活を満喫しようと思っています。



地域医療を支える

石川県内の 臨床研修病院のご紹介



金沢大学附属病院

〒920-8641 金沢市宝町 13-1
<http://web.hosp.kanazawa-u.ac.jp>

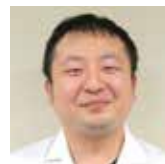
問い合わせ先 担当：卒業臨床研修センター
TEL (076)265-2058 FAX (076)234-4326
h-soum20@adm.kanazawa-u.ac.jp

メッセージ

当院の最大の魅力は強固な指導力にあると思います。経験豊富な指導医と深く関わることによって医療の本質を学べるプログラムになっています。何かと不安が多い初期臨床研修ですが、同僚が多い、指導が熱心という環境は心の支えになると思います。大学病院で幅広い医療の現場を体験し、将来の自分についてじっくり考えてください。
(卒後臨床研修センター 助教 北原 征明)



初期臨床研修は、自分の将来の医師像を模索しながら、医師としての基礎力をつける大事な時期です。当院では研修医自身が多様なプログラムを用意して、研修医のニーズに柔軟な対応が可能となっています。また多くの指導医と様々な症例を経験し、ともにディスカッションすることで、「考える力」を育てることができます。
(卒後臨床研修センター 助教 米谷 充弘)



金沢医科大学病院

〒920-0293 河北郡内灘町大学 1-1
<http://www.kanazawa-med.ac.jp>

問い合わせ先 担当：臨床研修センター
TEL (076)286-3511 FAX (076)218-8244
kensyu-j@kanazawa-med.ac.jp

メッセージ

当院は大学病院でありながらアットホームな雰囲気、軽症から重症まで幅広く疾患を学ぶことができ、指導医も1対1でしっかり指導して下さるので日々学ぶ事が多いです。講義や実技講習も充実しており、臨床現場でも手技を積極的に経験できます。研修医人数が多いため相談しやすく、互いに励ましあいながら日々楽しく研修を送っています。
(初期臨床研修医1年次 木田 麻理奈)



当院では大学病院ということもあり、多種多様で専門的な疾患を経験できるというメリットがあります。また、二年目の研修では自由度が広く自分の興味のある科をより専門的に学ぶ事も可能です。近年研修医の数も増え、研修の相談や情報交換もでき、活気にあふれています。これから多くの症例を経験し、より幅広い考え方、技術を身につけられるよう日々精進していきたいです。
(初期臨床研修医1年次 熊野 奨)



国立病院機構 金沢医療センター

〒920-8650 金沢市下石引町 1-1
<http://www.kanazawa-hosp.jp>

問い合わせ先 担当：管理課臨床研修担当
TEL (076)203-4502 FAX (076)222-2758
kenshu@kinbyou.hosp.go.jp

メッセージ

「兼六園」に隣接した当院は、国立病院機構の高度総合医療施設ならびに地域がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院、地域周産期母子医療センターとして様々な疾患や病態を総合的に経験できる臨床研修指定病院です。毎月開催される研修医集会、臨床研修委員会に加えてメンター制度も導入するなど、きめ細かな臨床指導を行なっています。(教育研修部長 太田 和秀)



当院は兼六園に隣接した554床の高度総合医療施設です。県下有数の救急搬送を誇り研修医は当直によって軽症から重症まで様々な疾患を経験する事ができます。上級医の先生方の細やかな指導の下、各自に合ったプログラムを臨機応変に組み合わせることが可能です。コメディカルの雰囲気も良く、研修医同士切磋琢磨でき、最高の環境です。
(初期臨床研修医1年次 宮森 睦月)





石川県立中央病院

〒920-8530 金沢市鞆月東 2-1
<http://www.pref.ishikawa.jp/ipch>

問い合わせ先 担当：総務課

TEL (076)238-7854 FAX (076)238-5366
syokuin@ipch.jp

メッセージ

当院は石川県における中心的医療機関として、一般の医療機関では対応困難な循環器医療、小児医療、がん医療及び救急医療を4本柱として高度先進的医療の充実を図っています。また、様々な患者さんが来院されるため、プライマリ・ケアにも幅広く触れることができ、研修医の皆さんが当院の医師としての第一歩を踏み出し、実り多い研修医生活を送られるよう指導を行っています。(副院長 岡田 俊英)



当院は症例数が豊富であり、指導医の数も多く、研修を行うには最適な環境が整っております。研修プログラムを自分で自由に組み合わせることができ、自由度の高い研修が特徴です。研修医1、2年生のみで救急当直(walk in 患者)を行い、初期からプライマリ・ケアを学ぶことができます。2年後には新病院が完成する予定ですので、ぜひ見学等にきてください。(初期臨床研修医2年次 古賀 貴博)



金沢市立病院

〒921-8105 金沢市平和町 3-7-3
<http://www4.city.kanazawa.lg.jp/36001/byouin/index.jsp>

問い合わせ先 担当：事務局

TEL (076)245-2600 FAX (076)245-2690
byouin@city.kanazawa.lg.jp

メッセージ

当院臨床研修の特徴は①コンパクトホスピタル:適度なサイズの病院であり、医療スタッフとの円滑なコミュニケーションを通し効率的な研修が達成できます。②地域から海外まで:当院、協力病院、仏・Nancy 大学病院での研修を通し、医師としての価値観を育みます。③フレキシブルな研修:柔軟に2年間の臨床研修を組み立てていきます。これらを通した「よき臨床医の養成」をテーマにしています。

(プログラム責任者 辻 宏和)



研修病院選びのポイントは?医学生なら誰もが悩むテーマでしょう。私は「実践で実践できる病院か」と思います。何事も自分が主体となり経験するかどうかで得るものに大きな差が出ます。当院は経験豊富な指導医のバックアップ体制があるのでそれが可能です。学生の延長ではなく、医師としての2年間で送りませんか?

(初期臨床研修医1年次 石倉 友希葉)



浅ノ川総合病院

〒920-8621 金沢市小坂町中 83
<http://www.asanogawa-gh.or.jp>

問い合わせ先 担当：臨床研修担当

TEL (076)252-2101 FAX (076)252-2102
info@asanogawa-gh.or.jp

メッセージ

当院は金沢市北部に位置し、機能の異なる5つの病院と1つの老人保健施設を運営する「医療法人社団 浅ノ川」の基幹病院として、総合的急性期医療を担当しています。石川県内の両大学に近く緊密な関係を保ちつつ、当院プログラムではグループ内の金沢循環器病院での研修や、金沢医科大学病院全科の研修が選択可能なプログラムとなっています。(臨床研修センター長 光田 幸彦)

日当直時のウォークイン患者は、研修医がファーストタッチをします。問診、身体診察、検査までを自分で考えることが出来、不明な点は上級医へ気軽に相談できる環境が整っています。将来の専門科に関わらず、知識の幅がぐんと広がるでしょう。また、多くの手技を経験出来、オペの第一助手としても活躍出来ます。研修医の数は少ないですが、その分自由度が高く、とても大切にされます。是非一度見学にお越し下さい!!

(初期臨床研修医1年次 新田 康人)



あさのちゃん
医療法人社団浅ノ川
浅ノ川総合病院
イメージキャラクター



城北病院

〒920-8616 金沢市京町 20-3
<http://jyohoku-hosp.com/>

問い合わせ先 担当：臨床研修担当

TEL (076)251-6111 FAX (076)252-5881
j-ishikensyu@jyohoku.jp

メッセージ

3人の息子の母であり主婦である小児科医です。当直免除など仕事と家庭が両立できるような配慮をもらい、充実した毎日を送っています。研修指導の場は外来が中心ですが、母としての視点を生かし、母子両方の立場に立って最善を考えられるよう、厳しくも温かい指導を行っています。(指導医 三上 真理子)



初期研修の2年間で「主治医」として患者を診る力をつけることを何よりも大切にしています。疾病の管理はもちろん、社会的背景も含め診ることを繰り返すなかで、「主治医力」や「責任感」を身につけられるよう、多くの指導医が見守りながら指導を行っています。(指導医 牧田 智絵)



地域の人たちと共に成長できる病院が城北病院です。専門性の高い指導医の元、アットホームな雰囲気の中研修をすることが出来ます。多職種との絆も強く、楽しい毎日を送ることが出来るはずです。(初期臨床研修医1年次 岩本 和恵)



金沢赤十字病院

〒921-8162 金沢市三馬2丁目251番地
<http://www.kanazawa-rc-hosp.jp/>

問い合わせ先 担当：企画課
TEL (076)242-9839 FAX (076)243-7552
kikaku@kanazawa-rc-hosp.jp

メッセージ

当院では、担当指導医を固定して面倒見良い研修を行います。「ポートフォリオ発表会」などを通して、自分の仕事を自己評価し、また他職種からの評価も得て、自分で考え、自ら成長し続ける医師を育成します。当院の特徴として、職員間で顔の見えるアットホームな雰囲気があり、また研修医の人数が多くない分、多くの経験ができます。当院で研修を受けていただけることを心待ちにしています。
(プログラム責任者 第三内科部長 久田 幸正)



日本赤十字社
マスコットキャラクター

当院の武器は、比較的小規模の病院であることです。部署の壁が殆ど無く、指導医は勿論、他科の先生も気軽に相談に乗って頂けます。コメディカルをはじめ様々な職種の方との繋がりが緊密です。盲目的に数をこなすことをやりがいとする方は向いていないかもしれません。個々の Problem list の入念な考察に基づく治療を重視する方にはオススメの職場です。(初期臨床研修医1年次 釜蓋 明輝)



地域医療機構 金沢病院

〒920-8610 金沢市沖町一 15
<http://kanazawa.jcho.go.jp/>

問い合わせ先 担当：総務企画課
TEL (076)252-2200 FAX (076)253-5074
main@kanazawa.jcho.go.jp

メッセージ

当院は、プライマリ・ケアに対応できる総合臨床医の育成を目標としており、「見る」だけでなく、「実践する」ことを重要視しています。臨床研修のテーマは、研修医が主体性を発揮できる研修であるため、研修医一人一人の希望に応じることができるよう自由度が高いプログラムが組まれており、オーダーメイドの指導を行っています。
(プログラム責任者 古川 健治)



JCHO 金沢病院の初期研修の特徴としては、研修医一人一人に合った研修を行えるということです。興味がある手技や検査があれば所属している科に関係なくいつでも参加でき、患者の疾患について詳しく勉強したい時はそのための時間がしっかり設けられることなどです。自分のペースで研修をやりたいという人は是非一度当院に見学に来てください。(初期臨床研修1年次 飯田 圭輔)



公立能登総合病院

〒926-0816 七尾市藤橋町ア部 6-4
<http://www.noto-hospital.nanao.ishikawa.jp>

問い合わせ先 担当：総務課 総務グループ
TEL (0767)52-8749 FAX (0767)52-9225
syomu@noto-hospital.jp

メッセージ

当院は、能登半島の中部に位置する中規模病院ですが、ヘリポートを備えた第3次救命救急センターを有しており、へき地への往診などの在宅医療から救命救急医療まで幅広い症例を経験することができます。また、研修医の希望に合わせたプログラムで自分のペースで研修を行うことができます。自然に恵まれた環境で、充実した研修を行いませんか。(臨床研修センター副センター長 柿木 嘉平太)



当院の魅力は、本人の希望に合わせて研修ができることです。必修科目以外は自由に選択できるため、一歩踏み込んだ研修も可能です。医師の生活に慣れるだけではなく、将来の方向を決めなければならぬ初期研修において、24カ月を存分に活用できると思います。指導医の先生方の優しいサポートの下で研修してみませんか。ぜひ一度見学に来てください。(初期臨床研修医2年次 黒田 諒)



恵寿総合病院

〒926-8605 七尾市富岡町 94
<http://www.keiju.co.jp>

問い合わせ先 担当：臨床研修センター事務局
TEL (0767)52-3211 FAX (0767)52-3218
kenshu@keiju.co.jp

メッセージ

～家族みんなの医療センターのプライマリ・ケアコース～
「家族みんなの医療センター (MCEF: Medical Center for the Entire Family)」という医療チーム・医療サービスが恵寿総合病院に誕生して約1年半が経過しました。MCEFのおこなっている医療サービスは、地域住民のニーズに応えられる総合的な診療能力を臨床研修医が確実に身につけられる絶好の機会です。「けいじゅ家庭医療プログラム」で研鑽を積みませんか。(家族みんなの医療センター長 新井 隆成)



指導医の先生方をはじめ、どの先生も親切丁寧で、わからないことも相談しやすい環境です。手技、自習、発表の準備などやりたいことに割ける時間も確保されています。研修内容はフレキシブルで、ある程度自由に回りたい科やその時期を決めることができます。(初期臨床研修医2年次 望月 聖太)





小松市民病院

〒923-8560 小松市向本折町ホ60
<http://www.hosp.komatsu.ishikawa.jp>

問い合わせ先 担当：総務課

TEL (0761)22-7111 FAX (0761)21-7155
cbsomu@city.komatsu.ishikawa.jp

メッセージ

南加賀の中核病院として石川県下で唯一、一般、精神、感染症、結核、緩和ケア病棟をもち、当院のみで全ての研修が修了できます。また南加賀急病センター、南加賀救急医療センターを併設し、併設完結型の救急医療に取り組んでいます。大き過ぎず小さ過ぎず、病院全体でバックアップしてくれる家庭的な雰囲気の中で、実践的でオールラウンドな力をつけるには最適な研修環境であることを保証します。(副院長(プログラム責任者) 上野 良樹)



当院は多くの診療科に常勤医がそろっており、必修レポートも当院のみで完了できます。診療科間の垣根も低いので、研修医であれば指導医に限らず色々な先生のお世話になってスキルアップできます。またクラブ活動などに参加することで先生方やコメディカルの方々と親しくなれます。先生方は学生の皆さんにきてもらえることを非常に楽しみにしています。ここでは書けない話もあるので一度お話を聞きに来て下さい。(初期臨床研修医1年次 山岸 豊)



公立松任 石川中央病院

〒924-8588 白山市倉光3-8
<http://www.mattohp.jp>

問い合わせ先 担当：総務課

TEL (076)274-5972 FAX (076)274-5974
mattohp@asagaotv.ne.jp

メッセージ

医師になり高い志を持った研修医にとって、必要な研修とは何か? それはできるだけ多くの症例を経験し、責任を持って診療する事だと思います。一例・一例を大切に人体の神秘に触れ、深く考察し学問をして下さい。白山市民を支え、石川県民を支え、日本を支え、それから世界を目指して下さい。(副院長(プログラム責任者) 高澤 和也)



当院の研修の最大のメリット、それは「主治医になれること」です。研修をして初めて分かることですが、主治医となり色々な指示を出せるのと、指導医の指示を後ろで見ているのでは研修の充実度に大きな差があります。中学生の頃を思い出してみ下さい。初めての部活で素振り等したと思います。研修病院で2年間も素振りを続けたいですか?(初期臨床研修医2年次 神田 龍人)



芳珠記念病院

〒923-1226 能美市緑が丘11-71
<http://www.houju.or.jp>

問い合わせ先 担当：総務部

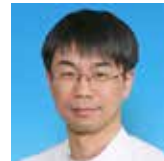
TEL (0761)51-5551 FAX (0761)51-5557
kotomi-i@houju.jp

メッセージ

当院は、石川県の南加賀地区の中核病院であり、ケアミックス型病院として地域医療から高度専門分野まで幅広い診療を行っています。そのため、広い診療分野において偏りのない研修が行えます。ご興味のある方はぜひ一度見学にお越しいただき、医局の雰囲気や初期研修の様子を感じていただけたらと思います。(院長 佐久間 寛)



『病院と地域全体で研修医を育てる』をモットーに研修医の育成に取り組んでいます。過度の研修医を受けないことで放任しない、お客様扱いしないことに留意し実践力として期待しています。研修を終了した先生方からは、診療科を超えた親密でアットホームな研修が評価されています。地域医療も希望者には、沖縄離島研修の機会を提供しており充実しています。(副院長(プログラム責任者) 吉光 裕)



医学生・研修医対象

石川県臨床研修病院合同説明会



日時 2015年11月14日(土) 15:00~18:00

会場 金沢ニューグランドホテル 4階金扇

【基調講演】 15:00~15:50

地域医療は面白い! ~地域を癒す48の取材記より~

講師：東京大学大学院医学系研究科 医学教育国際研究センター
教授 北村 聖 先生



【個別相談会】 15:50~17:00 【交流会】 17:00~18:00

お申込は、メールまたはお電話にて!

お問合せ先

石川県健康福祉部地域医療推進室

E-mail : iryoujin@pref.ishikawa.lg.jp

TEL : 076-225-1449 FAX : 076-225-1434

能登地域での地域医療研修の紹介

初期臨床研修中に約1ヶ月行う地域医療研修。
その1ヶ月を能登北部にて行った研修医に感想を伺いました。

市立輪島病院



中本 悠輔 先生
(聖マリアンナ医科大学病院)

1ヶ月間輪島で研修してみて思ったことは、「かなり高齢者が多いなあ」ということです。自分の勤務している大学病院も決して都会というわけではないのですが、それでもかなり年齢層は広いのだと実感しました。そんな輪島では、患者のニーズも大学病院とは全く異なり、入院中の患者さんの目指すゴールも、ただ単に疾患を治療するだけでなく、その先も考えなければならない点など、これぞ地域医療の醍醐味といえる所を経験することができました。この経験を自分の医師人生の糧とできたことは、とても大きなものだと思います。

最後に、こんな私に親切にして下さった病院関係者の方、そして地域の人々に感謝しています。貴重な1ヶ月間をありがとうございました。



新田 歩 先生
(石川県立中央病院)

輪島病院での研修で最も印象に残っているのは、訪問診療の実習です。通院している以外にも医療依存度の高い高齢の患者さんが多いと感じました。そのような方が今後増えていくことが予想される中で、訪問診療、地域包括ケア病棟の導入、介護施設との連携などで様々な試みが新たになされていました。地域医療のありかたが変わってきている、“うねり”の中にいるような感じがしました。そのような中で医療スタッフも事務も全員が大きな熱量を持って仕事に取り組んでいるのが印象的でした。このような現場に将来また携われたらいいなと、心からそう思える1ヶ月の実習でした。

公立宇出津総合病院



城戸 康年 先生
(東京大学医学部附属病院)

2015年4月、開業したての北陸新幹線に乗り、期待を胸に宇出津病院での研修を開始しました。研修中は3食美味しい食事を出していただき、週末には能登半島を巡り、豊かさを実感した1か月でした。廣正先生のご指導のもと、病棟と外来診療を経験しましたが、驚きの毎日でした。というのも、地域の高齢化が顕著であり、病態が多彩であることに加え、社会的背景も高齢化を反映したものであり、それらを総合的に勘案しつつ診療が行われていることを目の当たりにしたからです。まさしく「高齢化先進国・日本」を実感した瞬間でした。大変有意義な時間を過ごすことができ、すっかり能登の虜となりました！どうもありがとうございました。



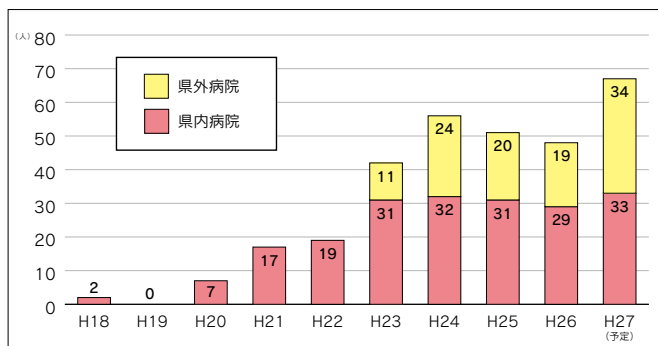
松葉 聖 先生
(金沢医科大学病院)

目の前に広がる青い海、潮の香り、心地よい海からの風を感じる場所に宇出津総合病院がありました。ここで一ヶ月間外科にて日々様々な経験を積みさせていただきました。普段研修している大学病院と大きく異なると感じた点が、「診療科の枠を越えた医療」です。患者さんとの距離が近く、患者さんはその先生を頼って体の不調の相談に来られます。その不調の原因が例え専門外であったとしても、他科の先生とも相談しつつ、その先生が主治医となり入院・加療を行う。これこそかかりつけ医、地域に根ざした医療のあるべき姿なのではないかと学ぶことが出来ました。美味しい食事、美しい自然、優しい人々に囲まれた一ヶ月間の地域研修で得たものはとても大きかったです。

能登北部4病院クリニカルラウンド

能登での地域医療研修を充実したものとするため、地域医療研修に参加している研修医や若手医師を対象としたクリニカルラウンドを能登地域総合診療強化研究会が企画しています。

クリニカルラウンドは能登で活躍する医師や全国的に著名な医師が講師となり、能登北部4病院（珠州市総合病院、市立輪島病院、公立穴水総合病院、公立宇出津総合病院）において実施されており、能登で研修を行う仲間とネットワークを作ることができます。



能登北部4病院での地域医療研修実施状況

● クリニカルラウンドの様子 ●



市立輪島病院



公立宇出津総合病院



珠州市総合病院



公立穴水総合病院





石川県地域医療支援センター

金沢市宝町13-1 金沢大学附属病院内 TEL.076-265-2991